

中間評価結果で課題となった事項

【教育に関する目標】

①学生の英語能力について、国際地域学部の TOEIC スコアは、中期期間を通じて目標値を下回っている。大学では、セルフ・アクセス・センターでの自律学習支援や、TOEIC ワークショップの開催などの対策を講じているが、TOEIC の受験者の増、目標値を上回る得点数の確保に向け、受験料の一部補助なども含め、抜本的な対策を検討されたい。

②平成 27 年度の大学院開設以降、定員充足率は毎年目標値を大きく下回っている。これまで、社会人入学者の負担改善のため、日本語開講科目の拡大や研究指導体制の見直しなど教育プログラムの再編を行うとともに、外国人留学生の確保を図ってきた。現在も県内大学生や社会人への PR、教員による協定校訪問など定員充足対策を進めているところであるが、今後も一層効果的な取組が望まれる。

【研究に関する目標】

③論文の引用件数等は、毎年目標値を大幅に上回る実績となっている。一方、論文数・査読付き論文数・英語論文数については、平成 27 年度以降、いずれも目標を下回っている。このことについて、教授会等で周知するとともに、学部学科別の論文総数や一人当たり論文数の集計結果をまとめ、学部長・学科長に対して各学部学科での取組を促しているところであるが、今後も一層の取組に努められたい。

【地域貢献・国際化に関する目標】

④新卒者の県内就職者数は、平成 29 年度以降、目標値を下回る状況が続いている。県内就職者数の改善に向け、県内企業見学バスツアーの開催、県主催のインターンシップマッチングフェアへの参加、業界研究講座や県内就職情報収集講座などを実施しているところであるが、今後も積極的に取組を進められたい。

【業務運営の改善等に関する目標】

⑤働き方改革において、研究、教育など多様な働き方をしている教員の勤務時間を客観的に把握する仕組みを検討されたい。

【自己点検・評価等に関する目標】

⑥学生や教員の地域連携活動や、大学主催の学術講演・公開講座の様子等、教育研究活動に関する情報について、積極的に情報提供を行っており、今後は SNS をさらに活用した発信を検討されたい。